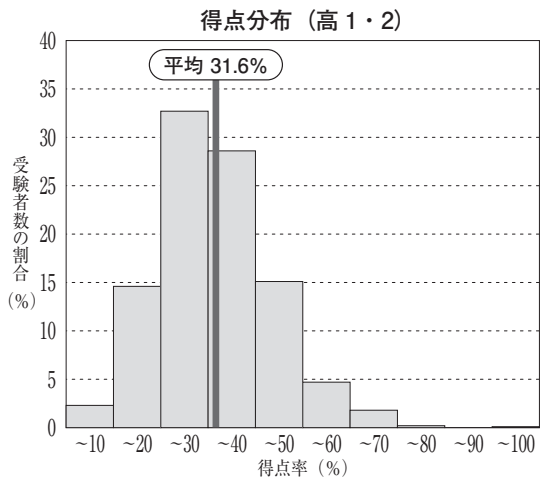
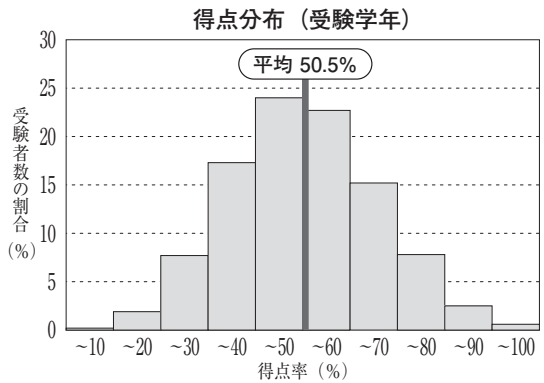


生 物

基本的な知識を定着させよう。

I. 全体講評

今回の全国統一高校生テスト生物の受験学年の平均点は50.5点だった。大問数やマーク数、難易度、大問ごとの出題分野はセンター本試験に準じた形をとり、第1問は生命現象と物質、第2問は生殖と発生、第3問は生物の環境応答、第4問は生物と環境、第5問は生物の進化と系統とした。分野に偏りがなく、教科書全体からまんべんなく出題している。また、第6問と第7問は生物の範囲から選択問題として出題した。今回の模試で平均に届かなかった大問、また他と比べて得点率の低かった大問に重点をおいて、しっかりと復習をしておこう。全体を通して、知識問題の正答率が低かった。教科書やテキストなどを見直し、重要な用語が身についているか確認しておこう。



II. 大問別分析

■各学年の平均点, 大問ごとの得点率

学年	平均点	第1問	第2問	第3問	第4問	第5問	第6問	第7問
高1	31.2点	20.3%	19.9%	41.0%	39.8%	20.5%	39.1%	79.0%
高2	31.7点	24.2%	21.6%	37.5%	43.2%	20.6%	39.6%	75.1%
受験学年	50.5点	34.7%	41.9%	64.1%	67.3%	32.7%	62.5%	77.7%
全員	46.4点	32.3%	37.5%	58.4%	62.0%	30.0%	55.1%	77.4%

第1問 生命現象と物質

遺伝子組換えについて理解しておこう。

Aは窒素同化に関する問題で、問1の受験学年の正答率は75.7%であった(以下の正答率は、すべて受験学年のものである)。Bは遺伝子組換えに関する問題で、問5の正答率は42.7%であった。

問4で出題した計算問題はよく出題されるものなので、正答できなかった受験者は復習しておこう。

第2問 生殖と発生

発生に関する知識を整理しておこう。

Aはカエルの発生に関する問題で、いずれも基本的な知識問題であった。Bは遺伝に関する問題で、問6の正答率は20.9%とふるわなかった。

今回はカエルの発生を出題したが、ウニやショウジョウバエの発生過程についても整理しておこう。

第3問 生物の環境応答

植物ホルモンの名称とはたらきについて理解しよう。

Aは種子発芽に関する問題で、問1の正答率は58.4%であった。ジベレリンのはたらきを答えさせる問題で、覚えていれば解答できる。Bは聴覚に関する問題で、問4の正答率は82.8%であった。聴覚が生じるしくみについて知識が身につけていることがうかがえる。

植物の反応には様々な植物ホルモンが関わっている。植物ホルモンの名称とはたらきを整理し、覚えておこう。

第4問 生物と環境

生物の多様性に関する知識を整理しよう。

Aは群れに関する問題で、問1の正答率は82.8%であった。問1は教科書に載っているグラフの内容である。Bは生産構造図に関する問題で、問6の正答率は64.5%であった。

生態系における物質生産について整理して覚えておこう。

第5問 生物の進化と系統

生物の系統を整理して覚えよう。

Aは3ドメインに関する問題で、問1の正答率は30.8%であった。この分野は学習が遅れがちな分野なので、身につけていない知識がないか確認しておこう。Bはハーディ・ワインベルグの法則に関する問題で、問5・6の計算問題の正答率はそれぞれ25.5%、28.5%であった。

ハーディ・ワインベルグの法則の内容を整理しておこう。

第6問 酵素

知識を整理しよう。

酵素に関する問題で、問3の正答率は50.1%で

あった。教科書の知識が身につけていれば解答できる。

第7問 動物の行動

解答しやすい問題を選ぼう。

動物の行動に関する問題で、問2・3の考察問題は非常によく出来ていた。一方で、問1の正答率は35.4%であった。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆受験生及び既に受験勉強に励んでいる人へ

センター試験では、教科書の全範囲からまんべんなく出題され、基本的な知識問題だけでなく、実験考察問題や計算問題などが出題されることもある。これらは、単なる知識の暗記だけでは対応できない。

このような問題に対しては、問題文を読みこなし、データを解析して、正しい解答を導き出す能力が必要になる。知識があやふやでは、このような問題に対応することはできない。「生物」の内容は量が多く、新しい知見や高度な内容も含まれている。これから本番の試験までの限られた時間で、すべての分野において教科書の知識を正確に身につけるためには、計画的に生物の学習を進めていく必要がある。過去問演習や模試のあとは必ず復習をし、解説をよく読みながら正しい知識の定着をはかるよう努力しよう。

◆これから本格的な受験勉強に取り組む人へ

教科書に記載されている内容は、細かな知識まで幅広く問われる。したがって知識に偏りがあると、高得点は望めない。今のうちから、教科書の知識をしっかりと身につけること、苦手分野をつくらないことを心がけて、少しずつ学習を進めていってほしい。